

1. まえがき

K Yとは、危険予知 (Kiken Yochi) の頭文字を採ったものである。

P K Yとは、危険予知活動の中でも「計画段階 (Planning) が大事ですよ」と言っている。計画上の間違いはその波及範囲が大きく致命傷ともなりかねないことから、過去の不具合事例をもとに、今後どのような視点を持って日常業務に臨むべきかを考えてみる。

※ 失敗の原因、失敗への対応、再発防止策などの詳細については、別途報告
申し上げる。

2. 不具合事例

- ① 脚の実施工において、電車線加圧部からの離隔が不足するものを施工してしまった
- ② 排水支持金具からのボルトが経年でゆるみ、抜け落ちた。→ 今後は極力、緩み止めボルトを採用する。
- ③ 矢板打込み箇所に移設不可の埋設物があって、設計変更には時間を要するとともに現場経費が嵩んだ。
- ④ 施工時の離隔が不足するものを設計した。

3. 我々に課せられた責務

現状の業務範囲においては前項①③④の決定に携わることはなさそうである。

②は計画時の話ではないが、我々の周りにはこのような無数の危険が潜んでいる。

上記事例をヒントに日常の業務に思いをはせれば、後施工アンカーが既設鉄筋とぶつかったり、排水樋と他の添加物が緩衝したり狭隘部のボルトが締められなかったなど、事例を挙げれば枚挙に暇がない。要は、**設計者は成果から派生するすべての諸問題に気を配らなければならない。**

4. 対 策

設計業務において間違いは許されるものではないが、個人の力には限界がある。己の限界を知り、時として上司・客先に判断を仰ぐ必要がある。そのところの見極めが難しいが、相成るべくは報告・連絡・相談を怠ることなく、特に利害が絡む客先とは、両方で確認したことを **打合せ簿として記録に残す** ことが問題解決の一助となることがある。

5. あとがき

個々の過ちを組織でカバーするにも限界がある。設計に携わる個々人が自己啓発を以って技術の向上を図り、**技術的余裕** の中で派生する諸問題に思いをはせ、その都度安全確保・不具合排除に全力を投じなければならない。この気持ちが **技術者の倫理** にほかならない。